

「藤沢の遊行寺(3)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

山本周五郎の作品と箱根駅伝で有名な「遊行寺(ゆぎょうじ)」ですが、山内は正式名称の「清浄光寺(しょうじょうこうじ)」の通り、清浄な環境です。特に季節の植物が参詣人の目を楽しませてくれるのが素晴らしいと思いました。



たとえばこれは「ハンゲショウ」という植物です。オカトラノオのような花をつけていますが、実際はドクダミ科の植物で、独特の匂いがあります。漢字では「半夏生」とも「半化粧」とも書きます。どちらも生態や形態をうまく言い当てていると思います。動植物の形、色、振る舞いには必ず理由があるのですが、なぜハンゲショウの葉の一部が白くて、あえて光合成の能率を下げているのか、謎です。



遊行寺坂側からは、どこが入口かわからないくらい超狭い参道なのですが、山内は非常に広く、ラジオ体

操の会場に使いそうなほどです。



これが開祖とされる「一遍上人(いっぺんしょうにん)」の像です。寺にちなんで「遊行上人(ゆぎょうしょうにん)」とも呼ばれています。延応元年(1239年)の生まれ、鎌倉時代中期の僧です。



この日は平日の午後だったので、参詣者もまばらで、山内はとても静かでした。せっかくなので「お守り」を求めたかったのですが、庫裏は閉まっていた。



寺の西側の墓地の一角には「歴代上人の墓」というのがあって、まるで陵(みささぎ=天皇陵)のように立派な門構えになっていました。(つづく)